

土地改良事業を契機とした取組事例 「加賀三湖地区」

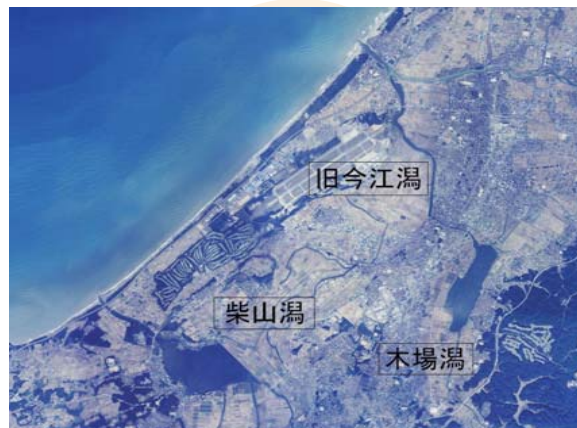


新堀川水門から望む白山

1. 地区概要

地区名：加賀三湖地区（干拓）
工 期：昭和27年度～昭和44年度
受益面積：排水改良：2,545ha
干拓：469ha

地区名：加賀三湖周辺地区（農地防災）
工 期：平成6年度～平成18年度
受益面積：用水改良：2,210ha
排水改良：2,150ha



加賀三湖地区

本地区は、石川県小松市・加賀市の柴山潟、木場潟、今江潟とその周辺耕地をふくめた、約3,000haの区域です。

地形は極めて平坦な低湿地で、梯川水位の影響を大きく受けるため豪雨時には潟水位が上昇し周辺耕地に甚大な被害を与えてきた。干拓事業は柴山潟・今江潟を干拓し、469haの水田を造成するとともに、新堀川を開削して潟周辺水田の浸水被害軽減を図りました。



新堀川と柴山潟（右端下に見えるのが旧新堀川）

その後の周辺地域の自然的、社会的状況の変化等に伴い機能が著しく低下した柴山潟干拓地の締切堤・八日市堤・御橋川堤の嵩上げ、新堀川潮止水門改修、併せて、加賀三湖導水路・串川相互導水路・柴山潟承水路の改修を加賀三湖周辺農地防災事業により行った。

2. 加賀三湖導水路と木場潟浄化

木場潟は県内でただ一つ太古のままの姿を残す湖で、かつては「水郷の楽園」と呼ばれるほど自然が豊かで美しかったといわれています。しかしながら、流域の都市化に伴い生活排水が流入し、環境基準を大きく超える程水質の汚濁が進行しました。近年は、木場潟流域における下水道の接続が進むと共に、多くのボランティア活動によって、少しずつですが水質は改善してきています。このような中、加賀三湖干拓地及び周辺農地に安定的な農業用水を供給するために、造成された加賀三湖導水路からは年間を通じて木場潟へ清流を注ぎ込んでいることから、これらの農業水利施設は木場潟の水質改善にも寄与しています。



加賀三湖周辺地区施設管理棟



木場潟

3. 新たな地域コミュニティの形成

加賀三湖干拓地域においても農家の高齢化が進んでいるほか、企業団地の進出や新たな住民の居住による混住化が進展してきています。このため、地域のつながりが弱くなってきており、これまで当たり前のように行われてきた地域の祭事などの継承も厳しい状況となってきたほか、干拓地及び周辺農地での農業生産活動に欠くことのできない農道や農地周辺の農業用排水路などの維持管理が困難な状況となってきました。このため、地域の基幹的な農業水利施設等の維持管理を担っている水土里ネット三湖が中心となり、農地・水・環境保全向上対策事業を活用し、農家・地域住民・小学校や企業などに理解と協力を得て、新たな地域コミュニティの形成に向け「加賀三湖地区資源保全会」を設立しました。会員は農地周辺の草刈り、農道の砂利補修や農業水利施設の補修等に加え、祭りなどへ参加することにより相互のつながりが強くなり少しずつ活気が戻ってきています。この活動が契機となり、現在当該地域には14団体もの新しいコミュニティが形成されており様々な取組がなされるなど、加賀三湖地域全体の活力が向上してきています。

農地・水・保全活動によるゴミ拾い



4. 地域の活性化施設「JAめぐり」

今江潟干拓地と柴山潟干拓地を縦断する広域営農団地道路南加賀線沿いには、農産物や営農園芸資材等を販売する「JAめぐり」があります。これは、JA小松市が加賀三湖干拓地及び周辺農地で生産される米、野菜、果樹、花卉などの農産物を生産農家が直接持ち込んで販売する直売所で、生産数量が少なかったり規格外品で市場に出せないのもであっても新鮮なものでさえあれば販売することが可能であるため、生産農家の労働意欲も高まっています。また携帯電話メールを使い、一日に数回、生産者が野菜を持ち込む態勢をとることにより、品切れを防ぐとともに、新鮮さと安全性の確保が図られていることなどが好評で、地元の人々のみならず県内外からも多くの人々が訪れるなど、そのにぎわいが年々増加してきています。この他、地元の特産品（ニンジン・トマト、ブロッコリー）を活用した加工品も販売されるなど、総売上額も年々増加し、近年では全国に108あるJA直売所の中で2番目に高い売り上げを誇っています。現在では本直売所に参加する農家も400人を超えるなど、生産基盤と販売戦略の融合により地域の活性化が図られています。

規格外の地元トマトを活用した商品（トマトカレー）



販売店内の状況

